



健康支援

きた。
定年退職後、沖縄市食生活改善推進協議会の会長に。活動の拡大へ、健康づくりに取り組む「自主グループ」発足を提案。各グループに推進員が関わり、会長だった6年間で20以上のグループが立ち上がり、会員は約450人に増えた。

政関係者や推進員の仲間、出会った皆さんのおかげです」と感謝する。
同協議会の顧問を務めており「長寿県を取り戻すためには、食に対する一人一人の意識向上が大切だ」と語った。
(沖縄市山内3の8の5)



黄綬

業務精励 (測量業)

砂川徹男さん (79)

元沖縄建設技研社長



環境配慮 経営理念に

半世紀以上、測量設計業務に従事してきた。現在でも設立会社の顧問として、豊富な知識と経験を後進に伝えている。
宮古島の旧下地町出身。琉球大を卒業後、ハワイ大大学院で土木工学を学んだ。家庭の事情で中退し、26歳で那覇の設計会社に就職。
当時は県内に10人ほどしかいなかった国家資格「技術士(建設部門)」を31歳の若さで取得するなど、技術を向上させるためがむしやりに働いた。40歳で沖縄建設技研を設立した。
思い出深いのは20年以上関わった西表島の白浜南風見線(県道

215号)。西表島は国立公園内であるため、特有の森林を保存しようと道路線形の計画やイリオモテヤマネコなどの存在を念頭に、道路構造物の設計などに当たった。大切にしてきたのは経営理念である環境への配慮だ。
本島中南部に分布する「島尻層泥岩土」の研究成果を学会で発表したり、琉球大で非常勤講師を務めるなど「何足ものわらじを履いてきた」と笑う。人と自然がマッチする技術継承へ、「若い人材を育てていきたい」との思いを強くしている。
(浦添市仲間3の9の9のD-28)

黄綬

業務精励 (ホテル業)



黄綬

業務精励 (航空機整備業務)

宮城善勝さん (59)

元日本トランスオーシャン航空運航点検整備部部長



安全

よしかつ
「航空機は多くの人に関わって1便1便飛ばしている。チームワークが大切だ」。1985年、日本トランスオーシャン航空の前身の南

整備専門会社T A E C Oへ出向し、国際的な航空整備の技術を学んだ。
沖縄では国際線の路線も増えて

藍綬

更生保護功績

